

8.24 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから。
- なぜ今の時期なのか
 - 震災直後は、自分のやるべきことがあったり自分自身の準備が整ってなかったから。
 - 募金や支援物資は学生である自分には微々たる物であり、あるのは時間だったため、ボランティア団体が入れる今の時期に参加した。
- なにがしたいのか？
 - 去年、大船渡を訪れた経験があり、震災後の現状を自分の目で確かめたかったから。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人の声が聞きたかったから。
 - 学習支援には自信があったため、学習ボランティアと聞いて参加した。

- 自分が今できることをしたい。

8.25 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

- 5:30 食事班起床
- 6:00 朝食準備開始
- 7:00 朝食
- 8:15 出発(学生 12 人)
 - 陸前高田市視察
 - 大船渡市視察
 - 社会福祉協議会挨拶
- 12:10~12:45 昼食
- 13:30~15:30 ベンチ作り(学生 12 人)
- 18:00 夕食準備開始
- 19:10 夕食
- 20:00~21:10 ミーティング
- 20:20~21:45 スタッフミーティング

2. 活動内容

被災地など視察、長洞仮設住宅のベンチ作り(4班にわかれ、4つのベンチを作成)

3.意見, 感想

復興の度合いに関する意見

早いと感じた意見：信号機や道路が新しく使えるようになっている。

遅いと感じた意見：これは復興ではなくただ片付けが済んだだけで復興が進んだわけではなく、放置されている状態に感じられた。

中間意見:早く復興しなければいけないのかもしれないが、精神的についていけないのではないか。

ベンチ作りについて

ベンチ作りのコンセプトの確認

今まで知らなかった人たちが挨拶や立ち話で終わらず、ベンチに腰をかけて話すことによってよりコミュニケーションが生まれ、新たなコミュニティの輪が広がって行く。このように、コミュニティ形成のためのベンチ作りだが、それが目標ではなく、私たちは被災者の自立を目指している。その手段としてのコミュニティ作りである。

仮設住宅での活動における留意点

名前を覚えて呼びかけあうことで、被災者という括りではなく、一人の人間として付き合う。また、被災者の方同士の交流が生まれるように、彼らをつなぐ意識で行動する。

8.26 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 朝食班起床

6:00 朝食準備開始

7:10 朝食

8:15 出発

① ベンチ作り班（8人）

10:00 小中井仮設住宅にてベンチ作り

12:00 お昼（住民の方7人と一緒に）

12:50 作業再開

15:50 作業終了

② 聞き取り調査、チラシ配布

9:30 ゴミ拾い開始

10:00 チラシ配布（1~30, 47~54棟）チラシ配布、聞き取り調査（31~46棟）

11:45 お昼

13:00 作業開始

15:30 作業終了

16:50~17:50 お買い物

18:05 夕飯準備開始

19:15 夕食

20:25~22:25 ミーティング

2. 活動報告

① ベンチ作り班

住民の方々に一戸ずつ挨拶。

8つのベンチを完成させ、4棟に棟各2つ配置した。

住民の方も2~3人作業に参加していただいた。

<感想>

住民の方々(7名)が昼食やおやつを振舞ってくださり一緒に食事をした。これ以上ないほどの温かいもてなしを受け、笑顔で会話をし、楽しく過ごすことのできたひとときに感動を覚えた。

このようなもてなしを受けることのできた理由の一つに、完成度の高いコミュニティ形成が挙げられる。この仮設住宅に入っている方々は同じ部落出身で、同じ避難場所での共同生活を経て入居しており、以前からの統括者がうまくまとめている。

またもう一つには長期にわたる関係があげられる。突発的にもてなされたのではなく、長期に渡ってチャイルドファンドが築きあげてきた関係によるもので、ボランティアと被災者という関係ではなく、ひとりの人と人同士の信頼関係がそこにはあるように感じられた。

このように、コミュニティの大切さ、自分たちと相手の関係はどうあるべきであるのかを改めて考えさせられた。

② チラシ配布、聞き取り調査

チラシのコピーをするため社会福祉協議会へ行ったメンバーを待っている間、ゴミ拾いをした。既に聞き取りが終わっていた1~30棟、時間がなくなってしまったため出来なかった47~54棟はチラシ配布のみ。31~46棟はチラシ配布のほかに聞き取り調査を行った。聞き取り調査の質問は以下のとおりである。

- 1、ベンチがあることを知っているか？
- 2、ベンチを利用したことがあるか？
- 3、他の人がベンチを利用しているのを見たことがあるか？
- 4、自治会作りが進んでいるという実感はあるか？
- 5、自治会はあったほうが良いと思うか？
- 6、近所の人との交流はあるか？

<感想>

なかなか質問だけに終わらず、話し込むケースが多く、コミュニケーション不足が強く見受けられた。近所の方との交流は挨拶程度という方々がほとんどで、ベンチの置き場所なども場所によっては他の家の方のもののように使いにくいという意見が多かった。だが一方、ベンチに座ることで近所の方との交流が生まれ、出身地が違う方と新たな交流が生まれたという声もあった。また、テーブルがあるとより良いという方もいた。また、ゴミ拾いで多く見受けられた吸殻から、対策案について話し合った結果、喫煙所の設置、ゴミ箱の設置、など

ではなく、被災者の方々の自立につながるような方法が必要という結論に至った。

そして、ボランティア（支援員）対被災者という非対等な斜めの構図になってしまうと、こちらからの一方通行に終わってしまう。それでは被災者の自立にはつながらない。対等な関係を築くこと、つまり、あげるだけでなくまたもらうだけでもない関係、相手の意見を聞くだけでなく自分の考えを示した上での「対話」を心がける必要がある。

8.27 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 食事準備

7:25 食事

グループ①(持ち寄りの夕食作り：学生4人)

8:15 調理開始

10:40 出発

12:30 お昼

13:00 長洞仮設住宅にてベンチ色塗り開始

15:30 作業終了、夕食持ち寄り会準備へ

16:00 ランタン作り開始

17:30~20:00 夕食持ち寄り会「はまっべし」

20:40 長洞仮設住宅出発

22:00 遠野拠点到着

※

グループ②(学生7人)

8:20 出発

9:30 長洞仮設住宅にて聞き取り調査開始(46~54棟)

10:30 聞き取り調査終了

10:45 YSセンター到着、聞き取り調査データ入力開始

11:30 データ入力終了

以下※と同様

グループ③(学生3人)

8:20 出発

9:40 杉下仮設住宅到着、学生3名、住民8名東京大学学生、移動図書メンバーも参加し、ベンチペンキ塗りとプレート付け(計18個のベンチとテーブル完成)

お昼

以下※と同様

「はまっべし」の意見・感想

<良かった点>

- 1、男性が多かった点。
 - 2、住民の方と一緒に呼び込みを出来たことにより、ボランティアの私たちではなく、住民の方々が人を集める原動力になった。また、住民の方の反応も良かった。
 - 3、小さいけれど、住民の方々が知り合いになるきっかけになった。住民の方同士が始めて知り合うきっかけになった。
 - 4、部屋番号と名前を交換しており、今後もつながっていく兆しが見えた。
- 「私がまとめていく」という心強い意見を聞くことが出来た。

<反省点>

- 1、皿洗い・ゴミの分別など、自分たちがすべてやてしまって、果たして自分たちがいなくなったあとにこのような集まりや活動を住民の方々にやってくれるだろうかという点。
 - 2、体が不自由など、来る意志があっても来られない人へはケアが必要である。そのケアを私たちではなく住民の方がこの先にして行ってくれるかどうかという点。
 - 3、ただの宴会のような一面があったという点。
 - 4、一人でそっと帰ってしまう人がいたという点。
- 5、ホストである自分たちの反省として、1対1で話しすぎた点、またそういう意味で、周りへの気配りが足りなかったかもしれない点。

8.28 大船渡ボランティア

1日の流れ

6:30 食事準備

7:00 食事

10:20 ミーティング終了

11:10 地ノ森仮設住宅へ遠野拠点出発

12:50 地ノ森仮設住宅到着、ペンキ塗り作業開始

13:30 作業終了（テーブル3つ、イス6脚）

15:30 地ノ森仮設住宅出発

19:00 夕食

<感想・意見>

住民の方々が一声かけてはくれるが、立ち止まってくれる方々が少なかったことから、通りすがりの住民の方々がボランティアの存在を当たり前のもとして見ているという印象が見受けられた。つまり、ボランティアに慣れてしまっているのではないかと感じた。

ベンチに一人で座って、家でも出来るような読書や編み物を一人でしている住民の方の姿があり、またそこに他の人が来て話すなど、ベンチが住民の関係作りに役立っているという実感を持てた。

住民の方の書いたデザインにあった「絆」という字を、子どもたちは意味を理解せずに言葉として使っていたことから、メディアの影響を強く受けていることが見受けられた。

子どもたちの言動から、遊び場がなくコミュニケーションが足りておらず、ストレスを感じていることがわかった。

.29 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

6:00 食事準備開始

7:00 朝食

8:15 出発

9:20~9:50 社協にて準備

10:40 末崎の「川原冷蔵」(魚の加工工場)に到着

グループ①工場付近にて盛岡商業高校の女子生徒と合同でゴミ拾い開始

グループ②工場の2階から1階へ荷物降ろし後、ゴミ拾い合流

12:00 昼食

12:50 ゴミ拾い再開

14:30 終了

15:30 社協へ到着

17:00 帰宅

19:00 夕食

19:45 ミーティング開始

21:30 終了

2. 活動報告

学生14人+盛岡商業高校の女子生徒(生徒約20人+先生2人)と合同(計36人)で、「川原冷蔵」付近の空き地のゴミ拾い。瓦礫、ガラス、金属、プラスチック、陶器などのゴミを拾い、分別して収集。その空き地には建物は建てられないので公園や野球場にする予定。

3. 意見、感想

- ・細かいガラス、瓦礫が多かったので子供が遊んだら危ないと思った。
 - ・物質的なものは目に見えるので収集したゴミを見て達成感を感じた。
 - ・ベンチ作りなどのコミュニティ形成を目的とした人と人とをつなぐ活動のほうで達成感を感じた。
 - ・ゴミ拾いにそんなに人数はいらないのではないか、側溝に人を回すべき
- <反省点>
- ・静かに作業するように注意されてしまった。

- ・作業効率が悪かった。
- ・集中できなかった。
- ・おしゃべりが目立った。

<解決策>

- ・休憩を確保できるよう提案する。
- ・自立して行動する
- ・声をかけあう。

8.30 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

7:00 朝食

8:15 仮眠

11:30 ふるさとセンターへ出発(バスの中で昼食)

13:00~14:40 ペンキ塗り、プレートつけ

14:50~15:20 碁石仮設住宅にてペンキ塗り、プレートつけ

15:20 出発(買い物班と長洞仮設住宅班に分かれる)

15:45 長洞仮設住宅に忘れ物の器(はまっぺしで貸していただいた)を返却

17:00 帰宅

17:30 夕食準備

19:00 夕食

20:30~11:00 ミーティング

2. 活動報告

ふるさとセンターでは14個のテーブルとベンチにペンキ塗りをし、もともと色が塗られていた7個のテーブルとベンチに加え今日の分の14個(計21個)にプレートをつけたが配置はしなかった。

碁石仮設住宅では、ベンチとテーブル各1つ(計2つ)にペンキ塗りをし、プレート付けは既に配置してある8個に加え、ペンキ塗りはされていたもの2個、新たに今日塗った2個の計12個につけ、配置した。

3. 意見、感想

- ・短時間だったが集中して作業ができた
- ・効率よく作業でき、気持ちよく活動をする事ができた
→なぜできたのか?
 - ・人数配分がうまくできていた
 - ・時間配分を考えた
 - ・みんなが常に考え、動いていた
 - ・やれることからやり片付けていった
 - ・機敏に動くことができた

8.31 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから。
- なぜ今ボランティアするか。
 - 直接被災したわけではないので、他人事のように感じていた。このまま東京で暮らしていたら、東北支援への思いがうすれてしまう。
 - スケジュールに余裕があったため。
 - 東日本大震災のさい、国内にいなかったため、罪悪感を感じた。そのため、今ボランティアに行かないと後悔する。
- なにがしたいのか？
 - 被災者と同じ目線に立って考えたうえで行動したい。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人の声が聞きたかったから。
 - 学習ボランティアと聞いて参加したが、実際は多様な活動を行っているため積極的に頑張りたい。

➤ 自分が今できることをしたい。

ひとりひとりボランティア参加前に何を考えるのか

ボランティア中に何を感じるか

ボランティア終了時何を思うのか考慮したい。